



大徳中学校

所在地：金沢市観音堂町ト35番地

電話：076-267-5027 F A X：076-267-5028

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/daitoku-j/>

校長名：小西 護

学年	1年	2年	3年	特別支援学級	合計
生徒数	219	163	222	3	604
学級数	6	5	6	2	19

H22年10月1日現在

	校長	教頭	教諭等					養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	特学	他					
職員数	1	1	10	10	11	2	1	1	2	1	7	47

1 平成21年度学力向上の取組内容の検証

(1) 基礎学力の向上

生徒に基礎学力を定着させるため、①授業中に小テスト（確認テスト・単元末テスト）を実施、②定期テスト前に質問教室や業後の補充教室を開設、③夏季休業中に補充教室と自学自習教室を開設するなどの手立てを講じた。さらに1・2年生は、朝学習の時間を利用して定期的に計算・英単語・漢字のコンテスト、47都道府県テスト、理科学用語テストを実施した。しかし、定期テストや各学力調査の結果を見ると、基礎学力の定着は十分とはいえない状況にある。

(2) 授業改善

授業力向上を目的として、「教師の授業に対する生徒アンケート」や「教師自身の授業評価（自己評価）」を実施し、その結果を分析したことで、学習指導上の課題を明確にすることができた。

さらに、年間2回の「校内研究授業の日」と研究授業週間に全員が研究授業を行い、それを教科・学年の枠を越えて参観することで授業改善につなげた。また、教科部会を定期的に行い、教科の課題、指導法や支援と評価についての情報交換を行った。これらによって、教師の授業改善に対する意欲が向上してきた。

(3) 家庭学習の習慣化

学力の向上には家庭学習の習慣化が不可欠であり、これまでも教科ごとに課題を与えてきたが、12月に実施した「家庭学習アンケート」では、家庭学習の時間が1時間に満たない生徒が約4割を占めており、定着していない結果が浮かび上がった。

(4) かがやきプラン（学びの共同体づくり）

生徒会やリーダー会を中心に、月別に学級独自の生活目標と学習目標を設定し、学校全体で取り組んだ。この取り組みにより、学校生活をよりよいものにしようとするリーダーたちの意識は向上したが、生徒全体までに浸透するまでには至らなかった。

2 学力の現状分析

全教科を通して見られる本校生徒の特徴として、「文章や資料から内容を読み取る力」に課題が見られた。国語においては、読んだり書いたりする能力についてはおおむね良好であるといえるが、論理の展開をとらえて内容を理解する力が不十分である。社会においては、基本的な用語に関する知識・理解についてはおおむね良好であるが、資料を読み取ったことをもとに表現する力がやや不足している。数学においては、1次関数や等式の変形などの考えを表現する力が不足している。理科においては、基本的な知識や計算力が不足し、観察実験データの処理方法についても理解が不十分である。英語においては、正確さには問題があるものの考えや思いを文章に書くことができるが、動詞の変化、三人称単数など、基本的な部分の理解が不十分である。

3 学力向上の取組

(1) 授業改善

- ア 授業力向上のため教師全員が研究授業を行い、教科・学年を超えた相互授業参観を実施する。
- イ 教師の授業に対する生徒アンケートを継続し、教師の授業実践における課題を洗い出し、その改善策を明確にし、実施する。
- ウ 教科部会を定例化し、指導方の工夫・改善に向けて、授業・評価の研究や研究授業の指導案の検討等を行う。
- エ 学力調査等で明らかになった生徒の実態から、「つきたい力」と「つけなければいけない力」を明示し、次年度の教育課程の中に盛り込み実践する。

(2) 基礎学力の定着

ア 各教科の取り組み

(ア) 国語科

- ・相手や目的を意識した、わかりやすい文章が書けるようにするとともに、生活に結びついた言語活動を取り入れ、目的に応じた様々な様式で文章が書けるように繰り返し指導する。

(イ) 社会科

- ・授業において生徒の思考の流れを大切にすため、考える場と時間を十分に保障し、書いたり発表したりする場面を多く取り入れる。

(ウ) 数学科

- ・学習規律を徹底させうえで、授業の中の思考過程を大切にし、言葉で説明する機会を設けることで表現力や思考力の向上を図る。

(エ) 理科

- ・基本的な理科学用語や計算問題（自作教材を使用）を繰り返し指導し、生徒への定着をはかるとともに、レポート等を用いて観察・実験の目的や内容に対する理解を深る授業を展開する。

(オ) 英語科

- ・基礎基本をくり返し指導するとともに、コミュニケーション能力を養うため、グループによる活動や発表をする場を多く取り入れた授業をすすめる。
- ・発問の仕方やワークシートに工夫を加えたり、ICT機器を積極的に活用したりして、生徒の学習意欲を高める。

イ 学習意欲を高めるため、1・2年生で朝学習の時間に行っていた読書の回数を減らして、9月より週2回5教科の課題プリント学習を実施する。

ウ 3年生では、9月より毎日全員対象の業後学習を実施し、11月より毎日希望者対象の自学自習教室（17：30まで）を実施する。

エ 今年度も、年間を通して学習コンテストを実施する。

（漢字、社会用語、計算、理科学用語、英単語など）

オ テスト前の部活動停止期間（1週間）に、業後1時間程度質問教室を実施する。

カ 生徒の意欲を高め、落ち着いて授業に取り組ませるために、短期的な学習と生活のめあてである大徳ステップアッププラン（DSP）を設定し、教師が一丸となって行動することによって生徒の意識の変化を促す。

(3) 家庭学習の習慣化

ア 家庭学習の方法や計画の立て方についての指導と助言をおこなうとともに、家庭学習が定着するように各家庭に学校だより等で協力を依頼する。

イ 各教科で連携して、計画的に宿題・課題を出し、毎日家庭で学習する状況を作り出す。

ウ 家庭学習の時間を増やすために、クラスごとに学習時間の積み重ねを示す「学習マラソン」を実施し、その成果を掲示する。

エ 11月と12月を「学習重点取り組み期間」とし、毎週水曜日をノー部活動デーとして、学年ごとに業後学習を実施し、その取り組みの成果を確認するために、1月に実力テスト（3年は統一テスト）を実施する。